

# 進め！民間養成救急救命士

## 第1回

### 民間養成救急救命士とは



講師・シリーズ構成

氏名:天野 忠好(あまの ただよし)  
所属:江津邑智消防組合(島根県)  
出身:島根県浜田市  
消防士拝命:平成14年  
救命士合格年:平成14年  
趣味:読書、ランニング

これまで、この連載シリーズではさまざまなテーマでリレー連載が行われてきましたが、これからの1年間、民間の養成校で資格を取得し全国各地で活動する救急救命士にスポットをあて、連載します。

救急救命士が民間で養成されるようになったのは、救急救命士法制定後、どの位経ってからだと思いますか？しばらくして、と思いきや、実はその翌年から民間養成校が開校され、教育が行われています。当時、私が民間養成校で勉強していた頃は、全国でも4～5校しかありませんでしたが、今や30校となり、各地に数多くの卒業生が消防などへ就職しています。

## 救急救命士養成施設

救急救命士の受験資格は、救急救命士法第34条で規定された救急救命士養成所（消防学校、専門学校、大学）で履修した者に与えられます。救急救命九州研修所（通称ELSTA）や東京研修所は財団法人救急振興財団が運営しており、各消防機関より、救急隊員として5年若しくは2000時間の実務経験を有する者が入所し養成されています。また、それ以外でも県や政令指定都市で独自の養成所を持つところがあります。養成所としては次の3つに大別されますのでここで確認しておきましょう。



### ・消防関連施設

消防関連施設は、現に救急業務に従事している消防職員に限定されています。教育は約6ヵ月です。つまり、市町村の消防職員として採用された以降、消防学校の「専科教育」救急科の課程（合計250時間）を終了し、かつ救急業務に5年以上または2,000時間以上従事した救急隊員を対象としています。私たちの先輩のほとんどがここで教育を受け現場で活躍されています。



### ・民間の養成施設

民間の要請施設では、高等学校卒業後、民間の救急救命士養成施設（文部大臣または厚生大臣の指定）にて2年以上の教育を受けると受験資格を得ることができます。この場合の教育時間は2,000時間以上となり、厚生労働省所管の医療関係職種としては高卒の准看護師に相当します。



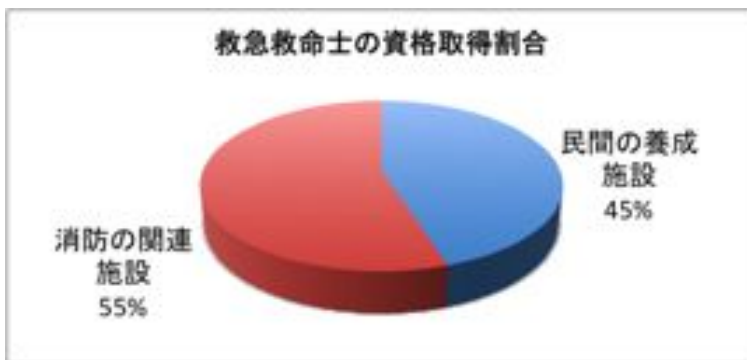
#### ・防衛庁関連施設

あまり知られていませんが、防衛庁所管の自衛隊病院に設置された准看護師養成所で1年以上教育された自衛官が、さらにもう1年間で所定の教育を受けた場合に受験資格を得ることができます。

防衛庁関連施設で教育された救急救命士は自衛隊員として活躍しますので、消防に勤務する救急救命士は、救急救命九州研修所のような消防関連施設と、私のような民間の要請施設を卒業した救急救命士に限られます。

消防関係養成所と、民間養成校の救急救命士資格取得割合について見てみましょう。

現在、救急救命士を取得しているなかで約45%が民間の養成学校出身者で約6700人、また、残りの55%が消防官になってから資格を取得した救急救命士とされています。



ただ、民間の養成校で救急救命士の資格を取得しても、その全てが救急車により活躍する訳ではありません。消防本部の採用試験に合格しなければ、救急救命士本来の力を発揮する事は出来ないのが現状です。全国には、そのような消防に勤務しない救急救命士が相当数いると言われ、救急救命士の職務拡大について多方面で議論が行われているところです。

社会からの救急出場要請は、年々増えるばかりです。全国の救急救命士養成施設は、現在もフル稼働で救急救命士を養成し続けています。

#### 消防関係養成所と民間養成校

救急救命九州研修所のような消防関係養成所の場合は、現職の地方公務員が給料と身分を保証されつつ、国家試験を取得するため、本人も必死ですが、派遣元の消防本部も不合格という事態だけはなんとしても避けたいという想いがあります。また、研修期間も6ヶ月と短いため、これから入所する職員は、その入所する1年前から

勉強を始めます。解剖生理学などの基礎科目をどれだけ事前勉強するかで、入所後の成績の伸びや合格率に大きな差が出てくると聞きます。

そのため、入所が決まった職員は、非番日の多くを勉強に充て、勤務中も「スキマ時間」を見つけてはテキストを開いて勉強しなければなりません。常に周囲からプレッシャーを受けつつ「攻めの勉強」が求められる事になるようです。

一方で、私たちのような民間養成校は、個人によって努力の差は大きく開きます。ほとんどが高校生の延長として入学しますから、「守りの勉強」の傾向にあります。中間テスト、期末テストが高校にあるように、もちろんテストがあるので勉強をしますが、それはテストで赤点を取らないための勉強であって、消防関係養成所のような必死さは少ない様です。赤点の先にあるのは、単なる居残り授業と親の涙ですからそれも仕方ありません。高校出たての19歳はまだまだ子供です。しかしそんな環境の中、周囲の誘惑に負けず高い志を持ち、自己研鑽を続けて卒業した学生は強い救命士の下地が出来ます。勉強期間が2年以上ありますので、消防関係養成所の4倍です。この4倍の期間を活かすも殺すも本人次第です。



## 私たちの行った想定訓練

当時、10年前に卒業した学校は今ほど教育体制が整ってはいませんでした。出来て数年の新しい学校ということもあり、実習といえばCPRの練習でした。もちろん血圧測定をしたり、JPTECのような外傷教育もありましたが、想定訓練というには忍びない内容で、教える教員も、教わる私達も「？」となるような事もしばしばでした。想定訓練を行い、教員から改善点を指摘されて学習するというより、一人の傷病者を決め、この傷病者のために一体何が出来るんだろうと、想定訓練を一から作り上げながら皆で学んでいったように思います。



[専門学校時代の海外研修 私はここで初めてバックボードという資器材を知りました。]

「喘息の傷病者を想定した訓練をしよう！」

誰かがそう話すと、

「傷病者役はどうすればいいの？」想定訓練はまずこんなところから入ります。

「喘息と言えは口すぼめ呼吸だよな。」

「じゃあ傷病者はどんな体位で救急隊を待っているのかなあ。半座位？それとも座位？」

「テキストには、起坐呼吸って書いてあるよ。あっ！ここに喘息は早朝か深夜に頻発って書いてある！」

「そっか〜。じゃあ体位は坐位で、想定の間設定は深夜にしよう。さらに呼吸性に呼吸を苦しそうにしておけば傷病者役は完璧だな！」

という風に、ひとつひとつ積み上げて行きます。

そうしていると、

「おいおい！同級生に喘息の奴がいてさ。聞いて見たら坐位は坐位でも、”少し前のめりな坐位”らしいぞ。しかも呼吸も吸気もどっちも関係なくしんどいって！」

「へえ〜！そんなことテキストのどこにも書いてないぞ。そいつ呼んで詳しい話聞こうや！本物の吸入器も見せてもらおう。」

「その辺走らせて、ラ音も聞かせてもらおうや〜！」

私たちの勉強方法は、救急救命士標準テキスト片手に傷病者をイメージして妄想を積み上げていく方法です。これが効率の良い方法だとは感じていませんでしたが、なんせ現場経験ゼロですから本物の傷病者を見たことがないので。携帯電話も白黒の時代ですから、スマートフォンで直ぐに調べる事もできず、答えなんか直ぐに分かりません。いろんな書籍をひっくり返して、図書室で分厚い本を開いても理解出来ないこともたくさんありました。消防に就職して初めて喘息の傷病者と接し、一生懸命勉強したことと現場が一本の線で繋がった喜びは今でも忘れません。

今となってみれば、当時は傷病者の立場に立って、自分達なりに良い勉強をしてきたんだなあと思います。ただここ数年、携帯端末はめざましく発展し、グーグルで検索すればなんでも0.2秒で答えを見つけることができますね。頼まれた事や人の真似をすることは得意な様ですが、すぐになんでも答えを見つける手段を持っている彼らは、あーじゃない、こーじゃないとイメージする力、考える力が足りないと言われてます。これから採用される民間養成後の救急救命士には、この妄想力を刺激するトレーニングが必要かもしれませんね。もちろん、私たちも逆に彼らから見習い、フリックを駆使して効率の良い手法を学ばなければなりません。





[自主勉強会の様子 若い職員の意見をよく聞き、想いを引き出すことが重要です]



10年前の勉強方法



基本は救急救命士標準テキスト  
インターネット環境がない  
イメージ(妄想)して傷病者像を組み立てる。  
勉強は集団でやるもの

現在の勉強方法



救急救命士用の様々なテキストが販売  
スマートフォンなどで、詳しい内容を一瞬で  
調べることが可能。  
イメージしなくても動画関連サイトで傷病者  
像を閲覧できる。



勉強方法	集団でやるもの	個人でやるもの
効率	悪い	良い
イメージ力	発達	未発達
コミュニケーション力	高い	低い

## 退屈(?)な転院搬送

私の所属する消防が管轄している地域は、いわゆる医療過疎であり救急救命センターといった病院はありません。地域で対応出来ない重症症例は管轄外へ転院搬送することが良く行われている地域です。ドクターヘリの運用も始まりましたが、夜間や悪天候時など救急車で陸送する場合は多く、転院先の病院まで1時間以上要することはまだまだ普通な地域です。



[ドクターヘリ訓練の様子。島根県でも運用が開始されました。]

そんな転院搬送は、医師の管理下で搬送するため重症ながらも多くは安定しており、救急救命士として大活躍する場面はそうありません。職場内においても、片道1時間、搬送先の病院で15分、帰り道でさらに1時間とその間救急車が出払っていても、その間に発生した事案に迅速に対応することは出来ず、出動する隊員のストレスも大きくなります。転院搬送の指令が流れると職場内には一気に不安感で包まれます。

採用された当初は、転院搬送は救急救命士として退屈な業務だと考えた時もありました。しかし、その転院搬送の業務の中で、私は傷病者から大切な事を教わったのです。

人生は夏休みのようだった

搬送先まで1時間超もあるのですから、傷病者と徹底的に向き合うチャンスでもあります。私は、人見知りはしますが話し好きな方なので、搬送中の車内では大抵、傷病者や医師と話をしています。これは高齢の男性を搬送していた時のことです。

「私の人生はね、夏休みのようやったよ・・・。」

そう私に突然語りかけて来られました。その男性は末期癌でした。癌であることは自覚しておられ、同乗した家族の方から「家族の時間を大切にしてくださいねと言われているんです。」とおっしゃっておられましたので、今搬送している男性が置かれている状況は、すぐに察することが出来ました。

「夏休みですか？楽しい人生だったんですね。」と、その男性の言葉を深く考えず、搬送先の病院へ提出する観察記録票にペンを走らせながら事務的に返事をしていました。男性は、首を横に振り「違うんだよ・・・。」と私に話し始めました。

「夏休みみたいにあっという間に過ぎたよ。夏休みみたいに宿題みたいなことも、いやなこともたくさんあったけど、夏休みみたいにたくさん思い出ができるんだ。でもね、夏休みには期限があって、やり残したことがたくさんあるんだよなあ。」

私は、男性が何を言いたいのか分からず、ただ聞いていました。

「こんな身体になっても、後悔ってしたくないんだよなあ。こんな身体になってもまだ死にたくねえって思うんだよ。でも時間切れなんだよなあ。ちくしょう・・・。ちくしょう・・・。」

そうやって男性は涙を流して黙り込んでしまいました。私はなにも答えることが出来ず、何も考えず軽はずみに返事をしたことをただ悔やんでいました。

わたしの夏休み

「夏休みのようなものだ」という話を聞いたとき、学生時代をふと思い出しました。小学校の時も中学校の時も、私は毎年パターンが同じで、夏休みになった瞬間に、今年は絶対に夏休みの最後2日間を徹夜で過ごさないようにするぞ！と心に決めて、夏休みに入った瞬間に最初の3日間で7割の宿題を一生懸命やりました。

「7割の宿題が終わったから、これで今年の夏休みは大丈夫だろう。」

と思って、その後はずーっと遊びました。夏休みも終盤になるにつれ、「そろそろ残りをやらないとやばいなあ。」と思うのですが、始業2日前になってようやく残りの3割をやることになるのです。当然徹する羽目になります。

「スタートは良かったんだけどなあ。」と原因を考えてみると、それはとても簡単な答えでした。すぐに出来る簡単な宿題ばかり最初に全部やって、しんどい読書感想文や日記を全部後回しにしているんです。このパターンのお陰で夏休みの最後の2日間は毎年徹夜です。

変なことに、これはその後毎年続きます。夏休みになる度に、今年こそは絶対に徹夜をしないぞ、去年のようにはならないぞと決めて、すごくいいスタートダッシュを切りますが、やっぱり間は遊んでいて、やっぱり最後は寝れないということの繰り返しでした。

「さてよ。このままだと、私の人生が終わりに近づいた時に、そこで初めてやり残していることが山ほどあることに気付くんじゃないか。」

って思いました。人生のまとめをする大締め新时期に、寝ている暇もなく、あれもしなきゃ、これもしなきゃとバタバタしながら人生を終えていく。そんな嫌な自分のイメージが浮かんできました。

この男性は私に、「人生の夏休みだけは絶対に後悔のないように、いまのうちからやるべきことをやってコツコツ積み上げて生きなさい。」という事を教えて下さったのだと思います。



楽しい夏休み!!



あっという間に夏はおわり。



残されたのは寂しい山...

終わりになって後悔する。



自分の人生は夏休みのように  
後悔が残らないよう生きていこう!!

## 私たちの正体

「私は、民間の救急救命士養成校を卒業した救急救命士です。」  
こう挨拶をすると、「おっ!そうなんだあ。」という顔をされるのは10年前の話です。「学校ではどんな勉強してきたの?」「病院実習とかすんの?期待しているよ!」と、同じ消防学校を卒業した同期とは違って、特別扱いされることに少々喜びを感じた時期もありました。

こんな状況で育ったこともあり、「ほんとうは何も知らないんですけど。」と今さら言い出せるわけもなく、思いもよらない前評判に困惑しながら、いつ私の正体がばれてしまうのかとドキドキしながら救急指令を待っていた頃がまるで昨日のようです。



しかし、10年経った今では

「知識はしっかりしているが、現場についてはどうせ0(ゼロ)でしょ?」

「救急救命士といっても消防士なんだから、救急の事ばかりしないように!」

と心なしか同じ消防学校を卒業した同期とは違って、苦い言葉を頂く事もまた事実のようです。

「現場については0(ゼロ)・・・。」

私たちの正体はすでにばれています。



[トリアージの勉強会。現場経験のなさを補い、一步一步前進していきます。]

これから一年間、民間の救急救命士養成校を卒業した救急救命士にスポットをあてます。約10年前に突如として各消防本部へ採用され始めた私達が、学校や現場で学んだこと、現場との温度差に苦労したこと、先輩や後輩、救命士を目指す学生たちに伝えたい事などを私達の見線からリレー連載していきます。

これは、民間養成救急救命士たちのドラマです。こんな私たちですから、信じられないような大失敗や、先輩と大げんかした事も数多くあるでしょう。私たちのことをもっと知ってもらうために、そして後輩に伝えていくために、笑い話としてどうぞ自由に語って下さい！

執筆頂く方の中には、元教員であったり、起業して社長救命士であったりと、変わった(?)経歴をお持ちの方もおられ、どんな連載になるのか私も楽しみです。

読者の皆様、お付き合い頂きますようどうぞよろしくお願い致します。





[専門学校救急救命士のパイオニアとして、「伝える」という役割を果たしていきましょう。]